

書家・茂住さん 迫力の揮毫

2022/8/9 中日

飛騨市古川町の市文化交流センター交流広場一帯で七日、古川町商工会青年部主催の「七夕まつりとナイトミュージアム」が開かれた。夜には青年部が願いを込めて選んだ文字を、市出身の書家・茂住青邨さんがしたためるパフォーマンスもあり、会場は幻想的な雰囲気にも包まれた。

(吉本章紀)

古川、七夕まつりとナイトミュージアム

花火や太鼓で盛り上げ

以前から茂住さんと親交があった青年部が、市美術館で二十一日まで開催している茂住さんの展覧会を、盛り上げようと企画した。

茂住さんのパフォーマンスは交流広場であり、紙を敷いた約一・八坪四方の台を、畳敷きの上に設置。花火と飛騨古川四神太鼓による演奏に続いて入場し

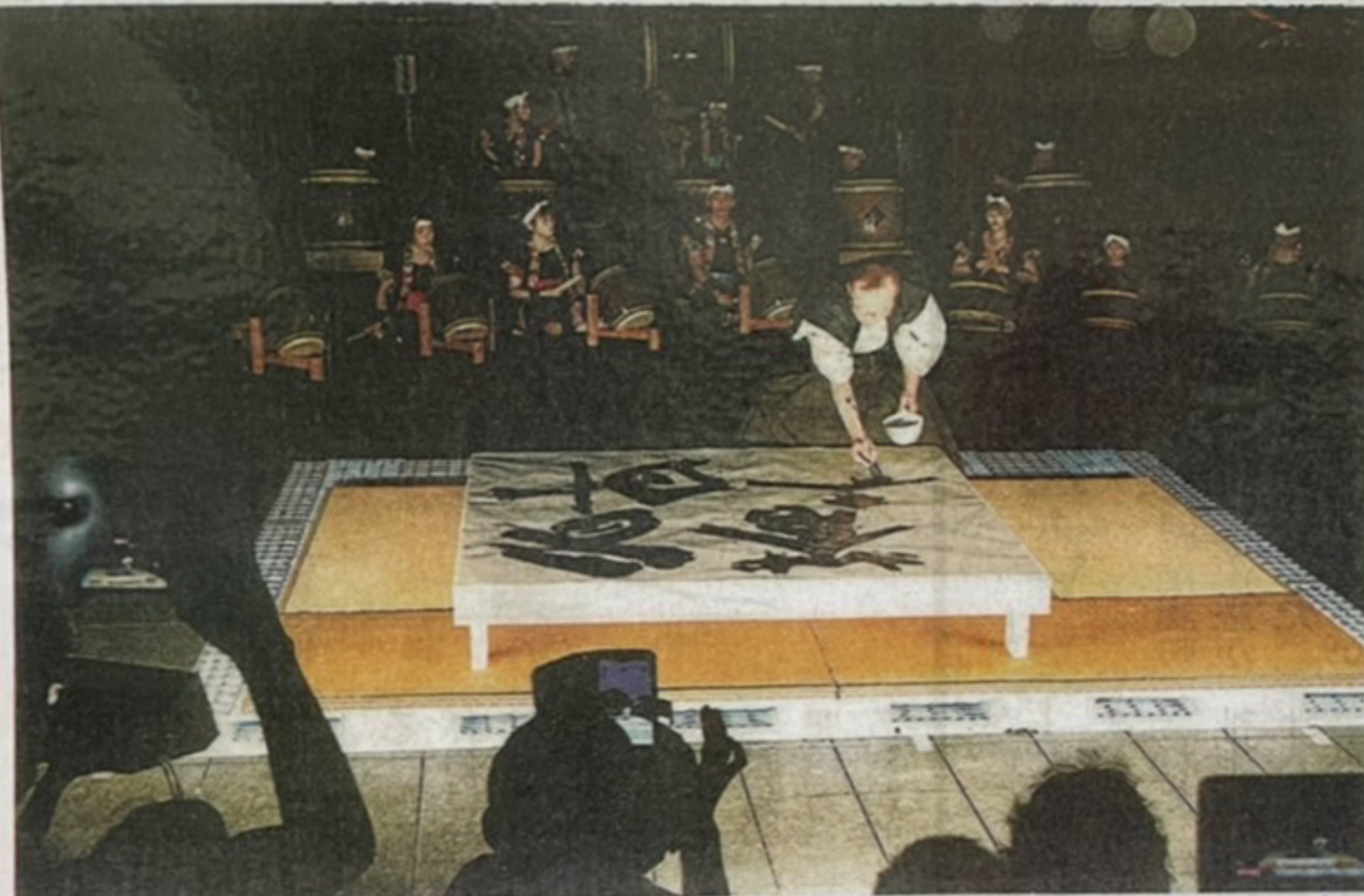
た茂住さんが、青年部のメンバーが新型コロナウイルスを念頭に「努力した先には希望が待っている」という意味を込めて選んだ」という「雲外蒼天」の文字を揮毫した。

茂住さんは「パフォーマンスは本当にやったことがない。完璧ではないが、一生懸命な姿を見てもらうことで、みなさんの

ために、地元のために何かなればと思ってやっている。その気持ちだけでもいい。ただ、持ちだけくんでいただければ」と述べた。同市古川小一年の水波桜子さんは「格好良くて、すごかった。自分もあんなふうになりたい」と話した。

また、会場には飛騨牛やスイーツなどのキッチンカーも並び、隣接する市美術館ではナイトミュージアムも開催。照明を落としたり館内で、親子連れがブラックライトをかざして隠された魚などの絵を探した。同市古川西小六年の田近優翔君は「すみすみまで見たけど、あと一匹見つけられなくて難しかった」。高山市東小三年の中谷未来さんは「ライトをつけて見て回るのが面白かった」と笑みをこぼした。

イベント終了後、古川町商工会青年部の田中大輔部長は「天気に恵まれ、コロナ禍でも多くの人に来てもらえた。普段はパフォーマンスをやらぬ茂住さんの貴重な機会を、たくさんの人に楽しんでもらえていたら、うれしい」とさわやかに語った。



「雲外蒼天」の字を揮毫する茂住さん＝飛騨市古川町で



照明を落とした館内で、ブラックライトをかざして絵を探す参加者ら＝飛騨市美術館で